

たった3日の恋

木谷恵子

島根県・13歳・中学生

「僕も好きだよ」

「そんな言葉で舞い上がった私。初めての告白・初めての両想い・初めての彼氏。すべてが初めてでうれしくて、楽しくて。これからの生活にワクワクした。今までは私だけの思い出だった事も、今日からは二人の思い出になる。ずっと幸せな日々が続くと思ってた。きのうまでは……。」

——ゴメン——

「あっけなく終わった私の恋。『パリーン』私の心が割れた。あんなに夢みてたのに、一瞬で消された私の夢。頭の中が真暗になって、ただかなしかった。何色ものビー玉がぶつかってはじめて割れた。」

「たった3日でもうれしかった。楽しかったのに……。今度こそ幸せになれると思ってた。花火が終わるように、桜の花が散るように、私の短い恋も散った。その日から私の心には、大きな穴があった。」

——ほかん——

「何もする気がしない。何も考えたくない。何もかもどうでもよくなった。それは現実から逃げてるから。『ふられた』って現実を認めたくなくて。認めるのが怖くて、ただ目をそむけて走っているだけ……。そんな事分かってる。」

「でも大切な人だった。初めて男の人から『好きだ』って言われて。うれしくて、すぐ死んでたくて。」

——もう私の横にあなたははいない——

「忘れなきゃいけない。あきらめなきゃ。」

「さようなら、辛かった恋。」

「恋は辛い思いをするほど強くなる、っていうけど大丈夫だよ。私の心の穴を、今度はちがう人で埋めていくんだろうか。まだまだ不安はあるけど……。」

「初めて告白したのがあなたで良かった。」

——思い出をありがとう——

「大切にするよ。」